

保 健 衛 生 の 概 況

令和 6 年度

川西町保健センター

目 次

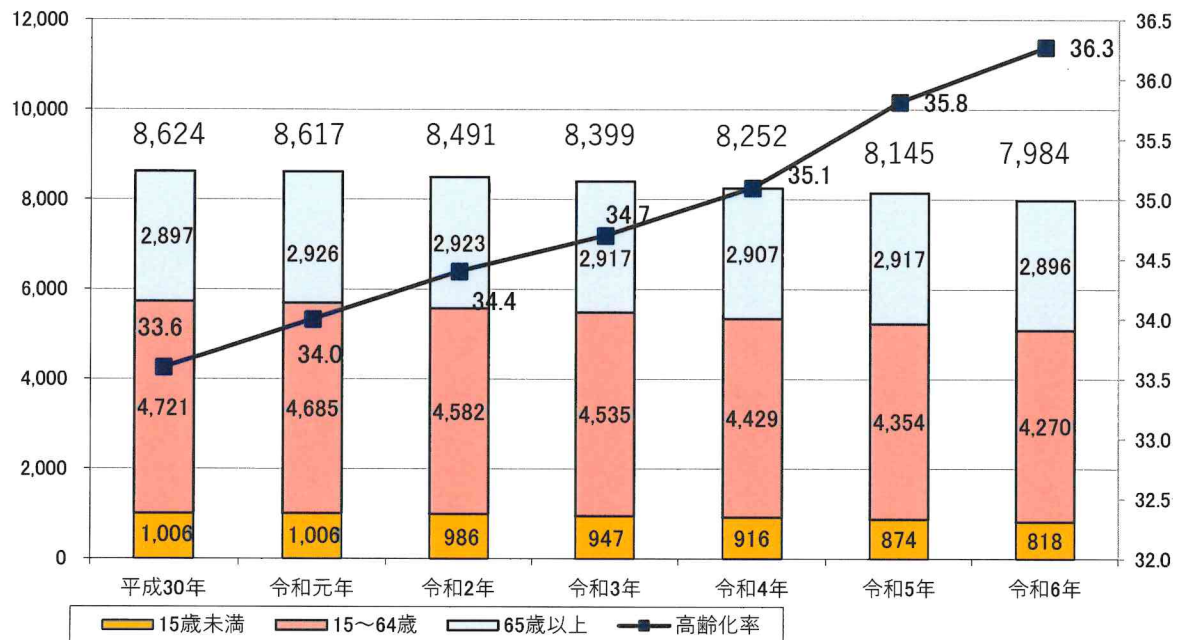
I. 川西町の概況	 1
1. 人口の動向	
2. 人口動態	
II. 成人保健事業	 3
1. 成人保健対策体系図	
2. 健康相談	
3. 健康教室	
4. 健康講座	
5. 健康増進法による健康診査	
6. がん検診	
7. 健康づくり事業	
III. 予防接種事業	 8
1. 法律に基づく予防接種体系（川西町での実施形態）	
2. 定期予防接種実施状況	
3. 任意予防接種実施状況	
IV. 母子保健事業	 14
1. 母子保健事業（子育て支援）体系	
2. 近年の母子保健事業の主な取組と背景	
3. 事業報告	
(1) 妊娠届出・母子健康手帳交付	
(2) 妊婦健康診査	
(3) 訪問事業	
(4) 出産・子育て応援ギフト	
(5) 乳幼児健康診査	
(6) 健康教室	
(7) 産後ケア事業	
(8) 母子手帳アプリ（母子モ）	
(9) 小児科・産婦人科オンライン相談	

I. 川西町の概況

※川西町住民基本台帳より（各年 10 月 1 日現在）

1. 人口の動向

(人) 図1 総人口及び年齢3区分別人口の推移 (%)



2. 人口動態

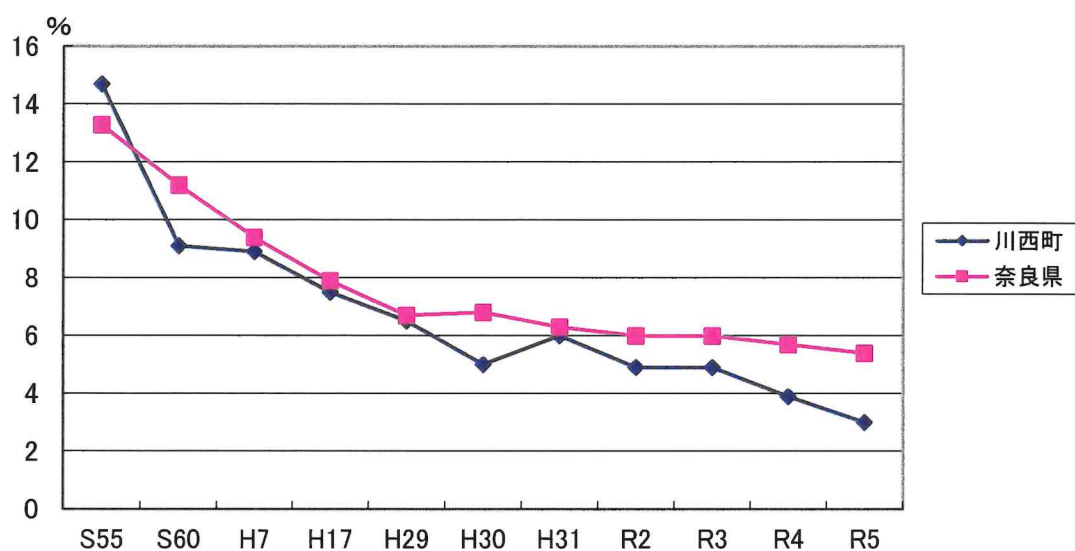
		出 生		死 亡		乳児死亡		新生児死亡	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
R1	川西町	49	6.0	104	12.8	0	0	0	0
	奈良県	8,323	6.3	14,660	11.1	15	1.8	8	1.0
R2	川西町	39	4.9	92	11.5	0	0	0	0
	奈良県	7,831	6.0	14,678	11.2	13	1.7	6	0.8
R3	川西町	39	4.9	116	14.6	0	0	0	0
	奈良県	7,751	6.0	15,573	12.0	17	2.2	7	0.9
R4	川西町	30	3.9	106	13.6	0	0	0	0
	奈良県	7315	5.7	17,166	13.3	16	2.2	6	2.2
R5	川西町	23	3.0	117	13.3	0	0	0	0
	奈良県	6943	5.4	16,972	15.2	14	2.0	5	0.7

(奈良県人口動態統計より)

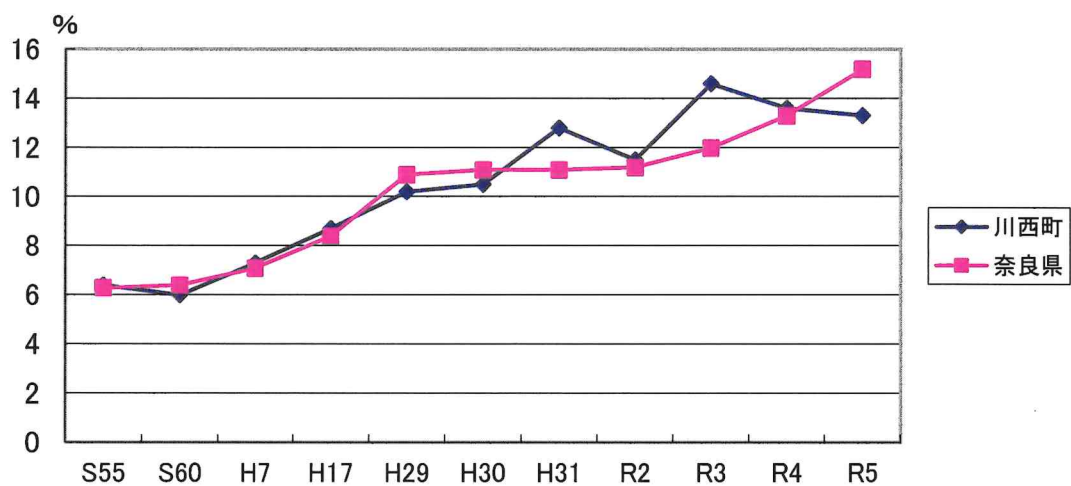
※出生率・死亡率＝事件数／人口×1,000

※乳児（新生児）死亡率＝乳児（新生児）死亡数／出生数×1,000

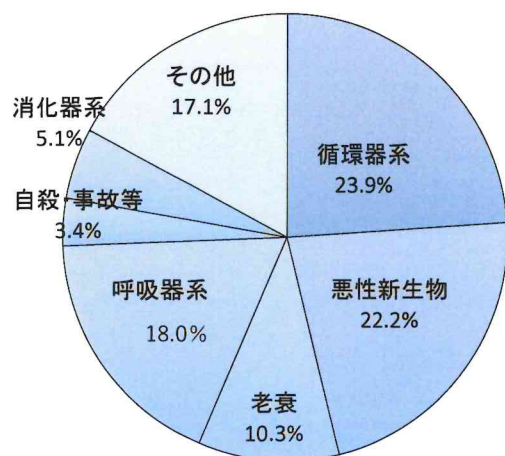
(1) 出生率の年次推移



(2) 死亡率の年次推移



(3) 川西町の死因別死亡状況 (R5 年)



疾患名	人数	率(%)
循環器疾患（心疾患、脳血管疾患等）	28	23.9
悪性新生物	26	22.2
老衰	12	10.3
呼吸器系疾患（肺炎等）	21	18.0
自殺・事故等	4	3.4
消化器系疾患	6	5.1
その他	20	17.1
計	117	100.0

Ⅱ．成人保健事業

1．成人保健対策体系図

	20歳代	40歳代	60歳代～
検診		胃がんバリウム検診（40歳～）＊胃内視鏡検診（50歳～） 大腸がん検診（40歳～） 肺がん検診（40歳～）	子宮頸がん検診（20歳～） 乳がん検診（40歳～） 結核検診（65歳～）
健康増進法による 健康診査		肝炎ウイルス検診（40歳及び一度も検査を受けていない者） 歯周病検診（20、30、40、50、60、70歳） 健康診査（40歳以上の生活保護費受給者）	
健康相談		病態別健康相談（生活習慣病予防） こころの健康相談（精神保健）	
各種教室		健康教室（男性の料理教室） 健康講座	
訪問指導		訪問指導（健康に関する保健指導、検診事後指導等）	
自主活動支援及び サポーター講習 （健康かわにし21推進）		さわやかのかのびのび会（運動グループ） 健康サポーター活動 健康サポーター養成講座（1回／3年）	
健康かわにし21計画 の推進		健康づくり推進協議会 健康かわにし21キャンペーン	
特定健診・特定保健指導 （国民健康保険加入者対象）		特定保健指導（メタボリックシンドローム該当者・予備群）	

2. 健康相談

健康に関する個別相談をおこない、正しい知識や必要な情報を提供する。

①健康相談

単位：実人数

	R5	R6
～64歳	3	3
65歳～	10	8
合計	13	11

②結果個別相談会

単位：実人数

	R5	R6
～64歳		18
65歳～		13
合計		33

R6年度は健康相談とは別に、新たに特定健診の結果個別相談会を実施した。国保担当課、介護予防担当課と連携して、集団の健康教育を行った後に個別で検診結果を説明し、健康に関する保健指導を実施。参加者に好評だったため、R7年度も引き続き実施している。

③こころの健康相談

単位：人

	R5	R6
実人数	8	11
延人数	120	97

(R6地域保健事業報告)

心の健康相談数は前年度と比べると延人数が減っている。頻回に連絡がある相談者については、他機関にも同様の相談をおこなっている場合があるので、他機関と連携しながら支援方針を検討している。精神科で入院している方が退院前に地域の関係機関と面接をおこない、退院後も孤立しないような取り組みがはじまった。それに伴い、地域の訪問看護事業所や相談支援事業所と協力して支援をおこなうケースが増えている。

3. 健康教室

生活習慣病予防のため、必要な情報を提供し健康意識を高める。

男性の料理教室（年間2回）

単位：人

	R5	R6
～64歳	0	0
65歳～	6	8
合計	6	8



男性の料理教室は、前年度に比べると参加人数が少し増えた。普段から調理をされる方、全く料理をされない方など、食生活に関する生活スタイルがそれぞれ異なっていた。だしの取り方を含めた減塩指導も行うことで、減塩への意識や高血圧への知識を深めることができた。試食をしたことで、作ったものをその場で食べた感想や作業を振り返ることができてよかった。また、参加者同士で自身の健康状態について語り合い、過去に町のがん検診でがんと判明し、早期発見・早期治療に繋がった者が経験談を話したことで、検診受診の大切さも共有できた。

4. 健康講座

単位：回

R5	R6
6	1



子育て世代向けを対象に、川西幼稚園で、保健師から「女性の知っておきたいがん検診」栄養士から「野菜摂取について」の健康講座とベジチェック測定を実施した。

5. 健康増進法による健康診査

①肝炎ウイルス検診

肝炎ウイルスの感染の有無を調べて肝炎の早期治療につなげる。

単位：実人数

年度	受診者数	陽性者数	
		C型肝炎	B型肝炎
R5	26	0	0
R6	38	0	0

②生活保護費受給者健康診査

医療保険に加入していない40歳以上の生活保護費受給者を対象に特定健診、特定保健指導に準ずる内容で健康診査および保健指導をおこなう。

単位：実人数

年度	対象者数	健診受診者	保健指導者
R5	93	0	0
R6	91	1	0

③歯周病検診

歯や口腔内の健康意識を高め、検診を受診することで歯の喪失を予防する。健康増進法に基づく20.30.40.50.60.70歳の節目を対象者として実施している。

単位：実人数

年度	対象者数	受診者	要精検者
R5	413	33	33
R6	584	25	25

6. がん検診

集団検診（胃・肺・結核・大腸・肝炎ウイルス・子宮・乳）

○胃バリウム検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	50～69	40以上	50～69	40以上	50～69	40以上	50～69	40以上	50～69	
R4	2,083	241	88	6.2	5.7	4	1	1.7	1.1	0
R5	2,067	264	83	6.4	6.0	6	3	2.3	3.6	1
R6	2,070	225	86	6.0	5.8	11	4	4.9	4.7	0

受診者数は横ばい。要精密検査は近年の中では多く、精密検査の結果ががんではなかったが、ポリープや委縮性胃炎・胃潰瘍など9割が他の疾患であった。

○肺がん検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～74	40以上	40～74	40以上
R4	3,299	286	120	5.1	3.6	1	1	0.3	0.5	0
R5	3,158	350	146	6.3	4.6	1	1	0.3	0.5	0
R6	3,106	315	112	5.7	3.6	6	5	1.9	4.2	1

* 定期の結核健康診断は65歳以上の方を対象に実施。

○大腸がん検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～74	40以上	40～74	40以上
R4	3,223	513	230	9.2	7.1	25	11	4.9	3.2	1
R5	3,158	613	290	11.0	9.2	26	15	4.2	3.8	2
R6	3,106	507	196	9.2	6.3	16	7	3.2	2.5	1

町の検診を利用する方は70歳以上の方が多く、69歳以下の受診者の約1.6倍ほどの受診者である。

○乳がん検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～74	40以上	40～74	40以上
R4	1,624	200	140	11.9	15	9	7	4.5	4.1	0
R5	1,600	170	105	12.6	15.3	5	4	2.9	3	0
R6	1,576	203	143	12.7	15.6	9	8	4.4	4.8	1

秋に再勧奨を実施したことで、前年度に比べ受診者数が増加した。

○子宮がん検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	20～69	20以上	20～69	20以上	20～69	20以上	20～74	20以上	20～74	20以上
R4	2,351	221	180	9.5	11.5	3	3	1.4	1.5	0
R5	2,238	185	139	11.4	14.3	4	4	2.2	2.5	0
R6	2,192	176	134	10.2	12.5	3	3	1.7	2	0

前年度と引き続き、受診勧奨と再勧奨を実施したが受診者及び受診率は微減。若い世代への子宮頸がん検診の啓発として、「はたちの集い」で啓発リーフレットを配布した。

医療機関での検診

①前立腺がん検診（任意型がん検診）

単位：実人数

R5	R6
4	3

②胃内視鏡検診

50歳以上を対象とし、2年に1回の助成とする。胃バリウム検診との重複受診はできない。

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	50～69	50以上	50～69	50以上	50～69	50以上	50～69	50以上	50～69	50以上
R4	2,083	9	5	0.3	0.4	0	0	0	0	0
R5	2,067	11	6	0.4	0.5	0	0	0	0	0
R6	2,070	10	7	0.4	0.6	2	2	20	28.6	0

胃内視鏡検診は平成29年度から始まり、ここ数年は受診者は横ばい。

7. 健康づくり事業

健康かわにし21（第2次）計画に基づいて健康づくりを推進している。

①健康かわにし21キャンペーン（ベジチェック）

単位：延人数

	R5	R6
回数	-	1
人数	-	94

文化祭で、「日頃の食生活の見直しや改善」「健康づくり」についての啓発を目的に、ベジチェックを実施した。ベジチェック後に、測定数値と問診票を元に管理栄養士が栄養指導や栄養相談を実施した。

②健康づくりウォーキング

単位：延人数

	R5	R6
回数	1	2
人数	29	38

前年度に比べ実施回数を増やし、年2回開催した。

健康サポーターが主体的に企画から運営まで取り組んでくださった。

③健康サポーターの活動（R6）

健康かわにし21計画の推進に協力していただいているボランティアの活動である。R6年度も母子保健分野から成人保健分野まで幅広く活動をしていただき、地域の健康づくりにご協力いただいた。

参加人数	26人
活動回数	21回
活動内容	・健康ウォーキングの企画運営 ・乳幼児健診サポート（読み聞かせ等） ・広報レシピの調理 ・健康サポーター養成講座（6回）

④自殺対策（R6）

	R6
回数	1
人数	10

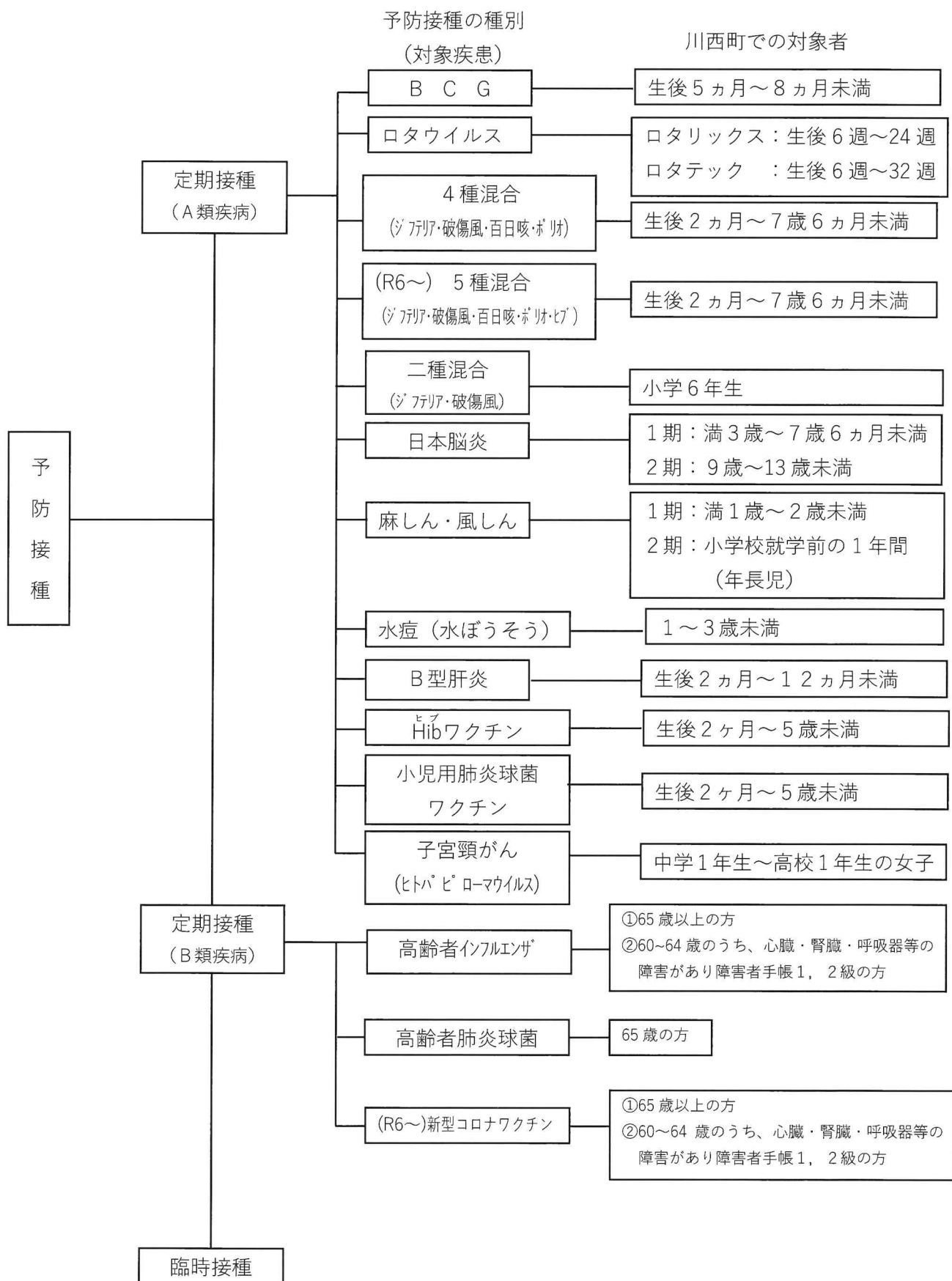
令和5年度から「健康かわにし21」計画と「いのち支える川西町自殺対策行動計画」を一体的にした計画を策定し自殺対策に取り組んでいる。

その一環として、川西町内の福祉サービス事業所を対象に、ゲートキーパー養成研修を開催し、町の自殺の状況や課題を知ってもらうとともに、適切な支援につなげていけるよう、理解と協力を得る研修を行った。

Ⅲ. 予防接種事業

1. 法律に基づく予防接種体系（川西町での実施形態）

令和7年3月31日現在



2. 定期予防接種実施状況

(1) A類疾病 令和6年度接種者数

予防接種名			対象年（月） 齢	接種回数	接種者数	接種完了率
BCG(結核)			生後5ヵ月～8ヵ月未満	1回	23	100%(1歳)
ロタウイルス			ロタリックス：生後6週～24週	2回	14	100% (1歳)
					10	
			ロタテック：生後6週～32週	3回	10	
					12	
					10	
四種混合(DPT-IPV) ジフテリア・百日咳 破傷風・ポリオ	1期	初回	生後3ヵ月～7歳6ヵ月未満	3回	0	ポリオ+三混 又は 四種混合 89.7% (7歳6ヵ月)
					2	
					2	
	追加	1回	37			
令和6年4月1日から四種混合がヒブワクチンを含めた五種混合となり、生後2か月以降の児は五種混合ワクチンに移行していったため、新たな接種者はいない。						
五種混合(DPT-IPV-Hib) ジフテリア・百日咳 破傷風・ポリオ・ヒブ	1期	初回	生後3ヵ月～7歳6ヵ月未満	3回	25	
					21	
					20	
	追加	1回	4			
二種混合(DT)	2期		小学6年生	1回	48	62.5%(13歳)
日本脳炎	1期	初回	3歳～7歳6ヵ月未満	2回	38	73.8% (7歳6ヵ月)
					41	
		追加		1回	35	
	2期		小学4年生	1回	61	68.7%(13歳)
	※ 1期	初回	※特例対象者 ・平成7年4月2日～平成19年4月1日生ま れの20歳未満の者 ・平成19年4月2日～平成21年10月1日生 まれの13歳未満の者	2回	0	32.9% 特例対象者 (20歳)
					0	
		追加		1回	1	
	※2期			1回	11	
※平成23年5月より特例対象者は、1期3回と、9歳以上に2期1回の計4回の接種を20歳までの間に定期接種として受けることが可能になった。						
麻しん風しん (MR)	1期		1歳～2歳未満	1回	27	97.1%(2歳)
	2期		年長児（小学校就学前の1年間）	1回	42	83.6%(7歳)
	5期		昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性 ※令和6年度で本事業は終了	抗体検査実施者数 5人 うち陰性者数 5人 予防接種実施者数 5人		
水痘			1歳～3歳未満	2回	31	86.7%(3歳)
					29	
B型肝炎			生後2ヵ月～1歳未満	3回	26	89.3%(1歳)
					22	
					20	

予防接種名	対象年（月） 齢	接種回数(数)	接種者数	接種完了率
ヒブワクチン	○生後2ヵ月～7カ月未満(全4回) ○生後7か月～1歳未満(全3回) ○1歳～5歳未満(全1回)	1回目	1	100%(5歳)
		2回目	1	
		3回目	1	
		4回目	24	
	令和6年4月1日からヒブワクチンが五種混合に含まれるようになり、生後2か月以降の児は五種混合ワクチンに移行していったため、新たな接種者はいない。			
小児用肺炎球菌	○生後2ヵ月～7カ月未満(全4回) ○生後7か月～1歳未満(全3回) ○1歳～2歳未満(全2回) ○2歳～5歳未満(全1回)	1回目	26	100%(5歳)
		2回目	22	
		3回目	22	
		4回目	30	
子宮頸がん（HPV）	中学1年生～高校1年生相当(女子)	2～3回	17	32.4%(16歳)
			14	
			5	
	キャッチアップ対象者 (平成9年4月2日～平成17年4月1日生まれの女性)	2～3回	56	
			53	
			45	

※子宮頸がん（HPV）ワクチンは、平成25年6月から積極的な勧奨を一時的に差し控えられていたが、令和3年11月に専門家の評価によりHPVワクチンの積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当」とされ、原則、令和4年4月から、他の定期接種と同様に、個別の勧奨を行うこととなった。

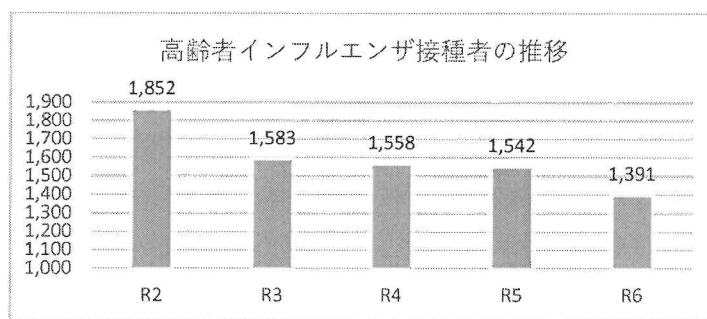
（２）B類疾病 過去５年間の経年接種者数

高齢者インフルエンザ

対象者	①満65歳以上の者 ②満60歳以上65歳未満の者で心臓、じん臓又は呼吸器の機能に自己の身の辺の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者（医師が該当すると認めた者/身障手帳１・２級相当）
-----	--

【高齢者インフルエンザ予防接種接種者数の５年間の推移】

年度	人数
R2	1,852
R3	1,583
R4	1,558
R5	1,542
R6	1,391



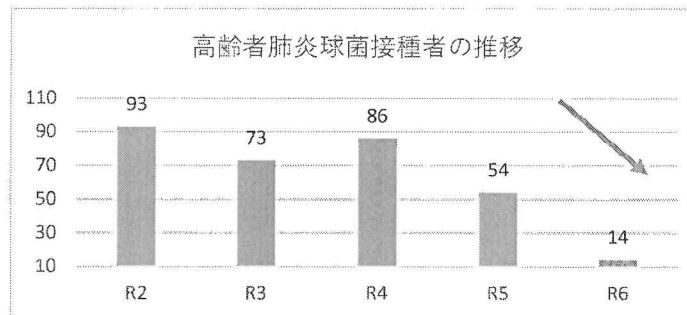
高齢者肺炎球菌

対象者	①65歳の者 ②高齢者インフルエンザの対象者②と同様 ③年度中に70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる者 (R1～R5年度経過措置)
-----	---

【高齢者肺炎球菌予防接種接種者数の6年間の推移】

(人)

年度	人数
R2	93
R3	73
R4	86
R5	54
R6	14



H26年度～5年間の経過措置で定期接種化されたが、再度延長となり、既接種者は対象とならないため、大幅減となっている。
 ※R5年度をもって、経過措置が終了し、R6年度からは接種対象者が65歳のみとなる。

新型コロナワクチン

対象者	①65歳の者 ②高齢者インフルエンザの対象者②と同様 ※新型コロナワクチンは、令和6年10月から定期接種となった。
-----	---

【新型コロナワクチン予防接種接種者数】

(人)

年度	人数
R6	368

3. 任意予防接種実施状況

任意予防接種は、予防接種法に基づかない予防接種であり、医師との相談によって判断し接種する仕組みになっており、定期予防接種と違って行政が推奨しているものではないが、使用するワクチンは厚生労働省によって薬事法上の許可がなされているものである。

そのため接種にかかる費用は全額自費であり、負担軽減を図るため接種費用の助成を行っている。

(1) 任意予防接種 過去5年間の経年接種者数

高齢者肺炎球菌ワクチン接種費用助成事業

対象者	町内在住の70歳以上の方のうち、定期予防接種対象外の者（1生涯に1回のみ）
助成内容	肺炎球菌ワクチン接種費用のうち、3,000円を上限として還付

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	人数
R2	5
R3	0
R4	1
R5	4
R6	1

・高齢者肺炎球菌の定期接種については、H26年～R5年度の10年間にわたり5歳刻みの節目年齢を対象として実施してきた。R6年度からは定期接種の対象が65歳のみとなり、これまでに接種を受けていない者が自費で接種する際に、費用の一部を助成している。

妊婦等風しん抗体検査ワクチン接種費用助成事業

目的	妊娠中に感染した場合、先天性風しん症候群に罹患した児が生まれる可能性があることから妊婦とその子供を風しんから守るため風しんワクチンの接種を推奨し、その費用を一部助成する。
対象者	①妊娠予定又は妊娠を希望する女性 ②妊婦の配偶者及び同居家族 ※ワクチン接種の対象者は、抗体検査の結果抗体価が低値の者
助成内容	風しん抗体検査費用の1/2(上限3,000円) 風しんワクチン又は麻しん風しん混合ワクチン接種費用の1/2(上限5,000円)

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	抗体検査	ワクチン接種
R2	1	1
R3	0	0
R4	2	2
R5	1	0
R6	0	2

・抗体検査については、奈良県も独自で助成事業を実施している。
・本町においては、県の助成対象にならない者、また県の助成事業で抗体検査を実施した者のうち、抗体価が低く、ワクチン接種を行った者に対し一部助成を行う。

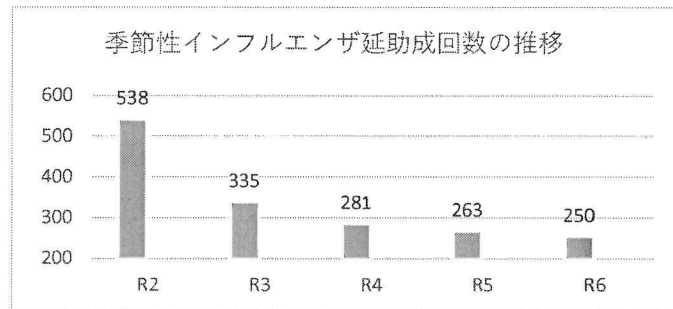
季節性インフルエンザ接種費用助成事業

目的	子どもの季節性インフルエンザ予防接種を希望する者に対し、接種費用の負担を軽減し受けやすい体制を整備するとともに、子ども個人のインフルエンザ発病又はその重症化を予防する。
対象者 助成回数	生後6ヵ月～小学6年生：2回 中学3年生・高校3年生：1回
助成内容	①償還払い方式：接種費用を全額負担後、保健センターにて還付手続きを行う ②助成券発行方式：事前に保健センターにて助成券発行を受け、医療機関で支払時に助成額を差し引いた額で支払う（町内医療機関のみ）

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	助成者数	延助成回数
R2	393	538
R3	264	335
R4	200	281
R5	213	263
R6	189	250



任意ワクチン接種費用助成事業

目的	子どもの任意予防接種（おたふくかぜ）を希望する者に対し、接種費用の負担を軽減し受けやすい体制を整備するとともに、その疾患への罹患又は重症化を予防する。
対象者 助成回数	おたふくかぜ：1歳～5歳で1回
助成内容	おたふくかぜ：接種費用の1/2（上限3,000円/回）

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	人数
R2	29
R3	20
R4	32
R5	17
R6	24

2.近年の母子保健事業の主な取組と背景

平成27年度

北欧で行われている“ネウボラ事業”を知り川西町版としての展開を検討

- ・庁内で子育て支援に携わる職員での学習会を開催（以降毎年度開催）
- ・先進地事例を参考に、次年度に向けた事業展開案をまとめる
- ・**子育て支援ハンドブックと子育て支援体系の概要**を作成

妊娠届出後～出産までの期間
で関わる機会が少なかったこ
とから**妊娠期の関わりを強化**

平成28年度

子育て世代包括支援センター（母子保健型）設置に向けた検討

- ・相談室（ネウボラルーム）の設置
- ・産前産後サポート事業として、**妊婦全戸訪問**と**母乳相談助成事業**の開始

先進地視察（和光市）

平成29年度

子育て世代包括支援センター（母子保健型）設置

- ・セルフプランと支援プランの作成
- ・赤ちゃん体操教室の開始
- ・1歳バースデー訪問の開始

時期に応じて利用者が適切なサービスを選択
するための支援と要支援者に対する関係者間
の支援内容の統一

平成30年度

妊娠期～乳幼児期にかけての切れ目ない支援の充実

- ・**産後ケア事業（宿泊型・通所型）**の開始
- ・子育て支援部門（基本型）利用者支援員との連携

産後不安定になりやすく虐待リスクも高ま
るこの時期に、母児が心身ともに安定して
過ごし、セルフケア能力を高める場を確保

令和元年度

- ・妊婦個別歯科検診が無償化

令和2年度

- ・母子手帳アプリ(母子モ)を導入

令和3年度

- ・小児科・産婦人科オンライン相談を導入

令和4年度

- ・出産子育て応援ギフトの開始、伴走型相談支援の充実

令和5年度

- ・産後ケア事業の充実

令和6年度

こども家庭センター設置（児童福祉機能と母子保健機能を維持し、より包括的な支援を行う機能設置）

- ・子育て世帯訪問支援事業（新規）の開始

*機能設置図（次の頁参照）

川西町こども家庭センター機能設置図

・令和5年度まで・・・

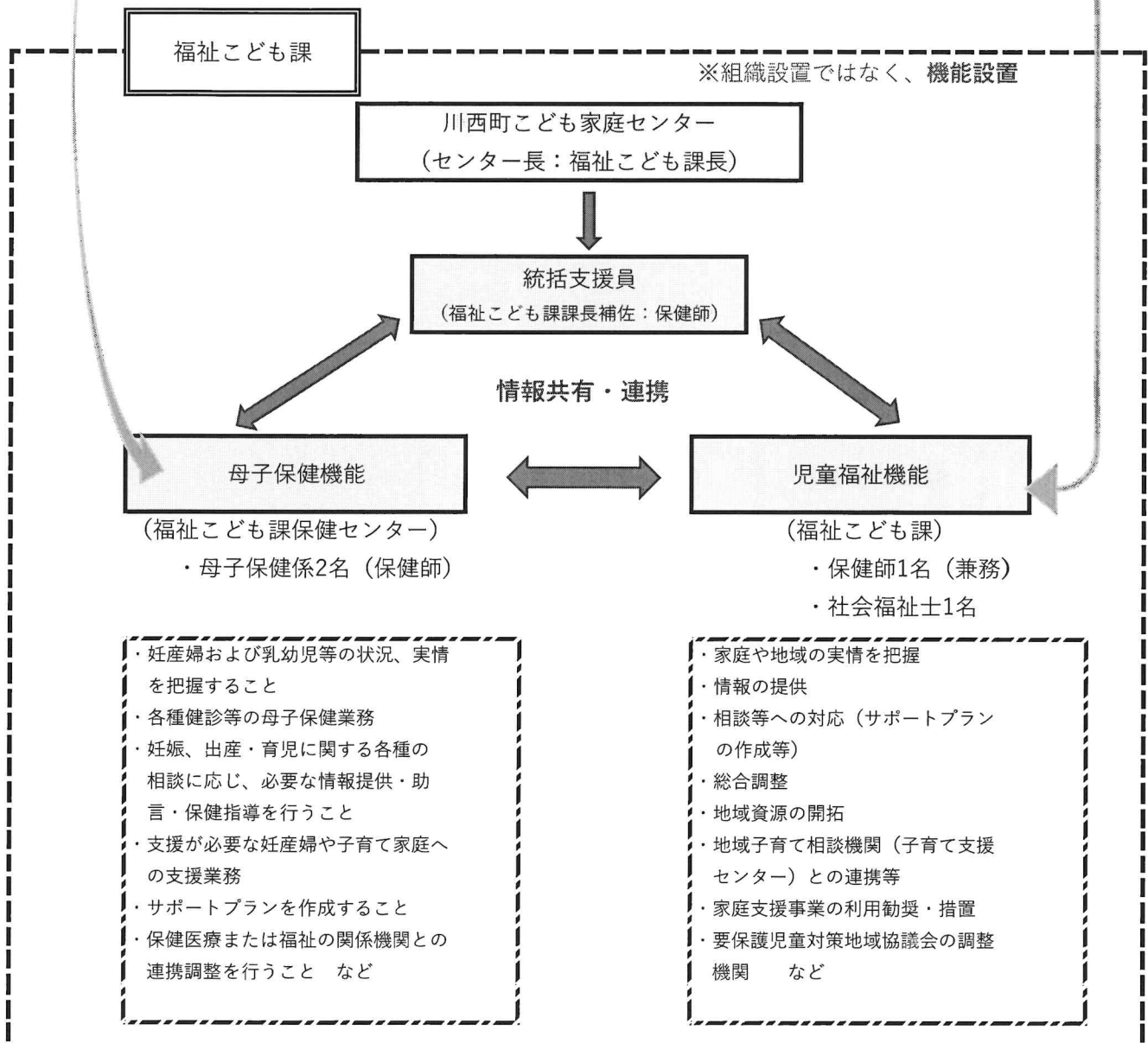
- ・子育て世帯包括支援センター（保健センター）
- ・こども家庭総合支援拠点（福祉こども課）

別々で機能

・令和6年度以降・・・

今までそれぞれの機関がそれぞれ支援を行っていたが、令和6年度からは統括支援員が中心となって包括的に支援する。

- 母子保健または児童福祉の機能は維持し、より包括的に支援
- 母子保健、児童福祉、双方の視点をもって支援



3. 事業報告

(1) 妊娠届出・母子健康手帳交付

妊娠届出時に保健師が面談を行い、その後アセスメントを行って支援の方針を決定している。

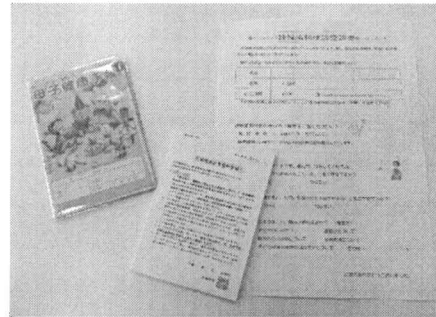
①妊娠届出状況(R6届出分)

単位：人(転入妊婦除く)

妊娠週数	満11週以内	満12～19週	満20～27週	満28週～	合計
人数	22	0	1	0	23

②初・経産別年齢区分(R6届出分) 単位：人

妊婦の年齢	初産婦	経産婦
～19歳	0	0
20～24歳	1	0
25～29歳	8	4
30～34歳	2	10
35～39歳	0	2
40歳～	1	0
合計	12	16



③最近5年間の妊娠届出者数の推移

単位：人

年度	R2	R3	R4	R5	R6
届出者数	40	40	32	39	23

出産応援ギフトが開始されているが、効果はみられず妊娠届出数は年々減少している。今年度は流産、死産した妊婦が数名いて助産師によるグリーフケアを実施している。

(2) 妊婦健康診査

H10年度から妊婦健診は地方交付税措置されており、H29年度からは97,500円分補助を行っている。

①最近5年間の妊婦健康診査実施者数の推移

単位：人

	R2	R3	R4	R5	R6
受診実人数	67	65	54	56	55
受診延人数	410	492	324	370	419

(地域保健・健康増進事業報告)

(3) 訪問事業

全戸への訪問は新生児(乳児)がH15年度～、妊産婦はH28.10月～行っている。令和6年度は育児支援が必要な産婦への訪問数が増えている。

①妊産婦・乳幼児訪問者数の推移(過去5年間)

単位：人

	妊婦		産婦		新生児		乳児		幼児	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
R2	25	26	38	44	34	40	7	8	0	0
R3	37	37	40	42	27	29	16	18	2	2
R4	24	29	29	41	28	28	12	12	0	0
R5	22	22	22	29	21	22	4	6	0	0
R6	24	24	26	46	25	25	8	20	0	0

②養育支援訪問者数

若年妊婦や産後うつ等により子育てに対して不安を抱える産後間もない時期の養育者がいる家庭等を対象として、育児の援助や相談・指導を行っている。H24年度～開始。

単位:人

	R2	R3	R4	R5	R6
実人数	0	0	0	0	1
延人数	0	0	0	0	11

③1歳バースデー訪問者数

単位:人

平成29年9月より開始。10カ月児相談から1歳6カ月児健診までの間に関わる機会となっている。

	R2	R3	R4	R5	R6
実人数	0	2	0	0	0
延人数	0	2	0	0	0

妊婦訪問や赤ちゃん訪問は、ほぼ全数訪問できている。令和6年度は、養育支援訪問と福祉サービス（家事援助）を併用しながら支援をおこなった。

（4）出産・子育て応援ギフト

令和5年2月より開始。妊娠期から出産・子育てまで一貫して相談に応じる「伴走型相談支援」と、経済的支援として「出産・子育て応援ギフトの支給」を一体的に実施している。

単位:人

	R5	R6
出産応援ギフト	30	28
子育て応援ギフト	23	23

（5）乳幼児健康診査

母子保健法第12・13条に基づき、4カ月児健診・1歳半健診・3歳半健診を実施している。また、法定外ではあるが、10カ月児相談と2歳児歯の健康教室を全員対象に実施している。

当初の健診予定日に来れない場合は、別日を提案しできるだけ受診につなげている。未受診者へは自宅や保育園への訪問、来庁により児の状況を把握している。

①4カ月児健診(年間6回)

最初の集団指導として、図書館職員より本を通した乳児期から親子のコミュニケーションの大切さや保健師より虫歯予防等についての話をを行い、地域の相談員である主任児童委員の紹介を実施。

○最近5年間の受診者数の推移

単位:人

	R2	R3	R4	R5	R6
対象者数	46	35	35	27	25
受診者数	46	35	34	27	25
受診率(%)	100%	100%	97.1%	100.0%	100%

(地域保健・健康増進事業報告)

健診後の支援が必要な方の理由としては、体重増加に関することが多く、定額や視線など発達に関すること、股関節に関することが挙げられている。

②10カ月児相談(年間4回)

4カ月～1歳半健診の間の全数把握の機会としており、発達の相談とともに離乳（食）に関する相談が多い時期である。

○最近5年間の受診者数の推移

単位:人

	R2	R3	R4	R5	R6
対象者数	55	38	42	29	28
受診者数	37(55※)	38	42	28	27
受診率(%)	67.2%(100%※)	100%	100%	97%	96.40%

※コロナの緊急事態宣言で1回分は電話相談で実施、()は電話相談を含めた人数。(地域保健・健康増進事業報告)

③ 1歳6カ月児健診(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

		R2	R3	R4	R5	R6
対象者数		49	48	35	34	35
受診者数		49	42	34	33	35
受診率(%)		100%	87.5%	97.1%	97.1%	100%
精 検 者 数	身 体	人数	1	0	4	3
		率(%)	2.0%	0%	11.8%	9.1%
	精 神	人数	0	0	0	0
		率(%)	0%	0%	0%	0%
	歯 科	受診者数	49	41	34	33
		う歯罹患数	0	0	0	0
		罹患率(%)	0%	0%	0%	0%

(地域保健・健康増進事業報告)

受診率は100%。例年、齲歯罹患率は0%で経過出来ている。精密検査者は、その後の受診結果を把握している。

④ 2歳児歯の健康教室(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

	R2	R3	R4	R5	R6
対象者数	57	51	46	42	34
受診者数	52	40	40	37	34
受診率(%)	91.2%	78.4%	87.0%	88.1%	100%
う歯罹患数	3	0	0	4	0
罹患率(%)	5.8%	0%	0%	11%	0%

(地域保健・健康増進事業報告)

感染拡大防止のためR3年度以降フッ素塗布を中止していたが、R5年度からフッ素塗布を再開した。令和6年度の受診率は100%を達成することができた。

⑤ 3歳6カ月児健診(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

		R2	R3	R4	R5	R6
対象者数		59	56	51	49	40
受診者数		54	52	46	43	39
受診率(%)		91.5%	92.9	90.2	87.8	97.50%
精 検 者 数	身 体	人数	1	1	1	4
		率(%)	1.9%	1.9%	2.2%	10.20%
	精 神	人数	1	2	0	0
		率(%)	1.9%	3.8%	0.0%	0%
	眼	人数	3	1	5	1
		率(%)	5.6%	1.8%	9.8%	2.5%
	耳	人数	2	2	2	0
		率(%)	3.4%	3.6%	3.9%	0%
	歯 科	受診者数	54	50	46	43
		う歯罹患数	5	5	2	4
		罹患率(%)	9.3%	10.0%	4.3%	9.3%

(地域保健・健康増進事業報告)

令和6年度は前年度に比べると受診率が向上した。体調不良や保護者の仕事の調整等の理由で欠席の場合は受診の再勧奨をすすめている。う歯罹患患者数の5名は健診後に電話連絡を行い受診を勧めている。

(6) 健康教室

(妊娠期)	0歳	(乳児期)	1歳	(幼児期)	3歳
①ママパパ教室	②赤ちゃん体操教室 ③離乳食教室		④⑤キッズからだあそび教室 (すくすくサロン) ⑥療育教室	⑦出張発達相談	⑧親子クッキング ⑨歯みがき指導

各時期に保護者の不安の高いテーマや啓発したいテーマを取り上げ教室を開催している。不安解消とともに保護者同士の交流の場ともなっている。また、支援者側からは、健診後のフォローの場としても役割を果たしている。

①ママパパ教室

平成29年度より、パパクッキングの機会を取り入れたことにより、父同士の交流の場にもなっていた病院で行う教室と異なり、妊娠期から地域とのつながり作りや出産後の子育てのイメージを夫婦でもってもらえる機会としての役割をもたせている。(年間3回) 単位：人

	R2	R3 (2回)	R4	R5	R6(2回)
参加者数	16	9	15	15	4
(うち父親)	5	4	7	7	4

※R3 コロナの感染状況により1回中止。

R5年度よりパパクッキングを再開している。開催1回あたり3組ほどで少ないが、個別指導が充実している。

②赤ちゃん体操教室

平成29年度より産前産後サポート事業の一環として開始。作業療法士と保育士が中心となり、発達に応じた体操や遊び、生活に関する情報提供などを行っている。(年間10回) 単位：人

	R2(10回)	R3(11回)	R4(11回)	R5(11回)	R6 (11回)
参加者数 (実/延)	24/88	30/74	30/112	24/82	27/64



出生数が減少傾向であるが、満足度の高い教室で参加者数は一定数保たれている。

③離乳食教室

離乳食の作り方を、実演を交えながら説明している。試食を行うことで、子どもの口の動きを見ながら個人にあわせた進め方のアドバイスを行っている。(年間6回) 単位：人

	R2 (年5回)	R3	R4	R5	R6
前期	15	13	13	14	12
後期	15	7	13	12	10



アレルギーや咀嚼発達に合わせた食事の進め方についての質問も増えており、家庭で実践しやすい内容で説明している。体重測定にて、成長確認の機会となっている。

④すくすくサロン

幼児期における食事の悩みやその他子育ての相談が気軽にできる場となっている。手作りおやつを紹介や子どもの事故予防の話などサロンの楽しい雰囲気話で話をすすめている。

	R2	R3	R4	R5	R6
参加者数	16	15	6	22	
回数	3	3	3	4	終了

単位：人,回

令和6年度からは、キッズからだあそび教室の中で1回実施した。

⑤キッズからだあそび教室

集団遊びをとおして、児の心身の発達やことばの発達を促すとともに、保護者が児の成長を理解し、親子関係の確立を図ることを目的とする。 年間11回

単位：人

年度	R 5 (11回)	R 6 (11回)
参加者数 (実/延)	11 / 66	21 / 105

令和5年度より、従来の集団療育教室の参加人数減少のため、一般参加できるようにして実施しており、参加人数は増加している。

⑥療育教室

個別療育

平成28年度より、発達障がいのある児（疑いを含む）に対して、早期から療育訓練を行い、保護者が児の発達を正しく理解し発達を促す関わりがもてるための指導・助言を行っている。

個別に目標設定を行い、個別指導計画に基づいて2カ月ごとに見直しなが療育を実施。

単位：人

年度	R2	R3	R4	R5	R6
延(実)	36(1)	35(2)	73(2)	46 (1)	46(1)

言葉やコミュニケーションの遅れについて相談のあった児は、成長が見られ、保護者も家庭で児の発達を促す関わりを持つことができた。

⑦出張発達相談

幼稚園・保育園（町外を含む）に在園している児の発達について、就学を見据えた乳幼児の健全な成長発達を支援することを目的とする。

場所	R2	R3	R4	R5	R6
成和保育園	2	3	6	3	6
川西幼稚園	8	7	4	3	3
川西こども園	3	9	8	5	5
その他	—	—	1	—	1

健診後や就学前の利用が多く、子どもの状況を把握したうえで、保護者の不安や困り感を聴き、発達支援の方向性を提案している。

⑧親子クッキング

親も調理方法を学び、子ども自身も調理をすることで食への関心を高める良い機会となっている。午前と午後の2部制にして密を避け、感染対策を実施しながら親子単位でクッキングをおこなっている。

対象	R3	R4	R5	R6
3歳児	24組(同伴者13名)/4回	28組(同伴者12名)/4回	16組(同伴者5名)/2回	36組(同伴者10名)/5回
4・5歳児				
小学生	16組(同伴者10名)/2回	21組(同伴者10名)/3回	29組(同伴者7名)/3回	23組(同伴者6名)/3回
パパとクッキング	8組(同伴者3名)/1回	8組(同伴者4名)/1回	9組(同伴者1名)/1回	6組(同伴者1名)/1回

※R1, R2はコロナの感染状況により中止となった日程がある。

参加希望の多い教室。魚料理をメインとした日程もあり、子供が3枚おろしを体験できる。最近では、父親の参加者も増えてきている。



⑨歯みがき指導

1 幼稚園・保育園・小学校での歯みがき教室

年齢に合わせてペープサートやスライドを利用して歯の大切さについて伝えた上で、ブラッシング指導を行っている。(各施設年1回)

単位：人

場所	R2	R3	R4	R5	R6
成和保育園	中止	中止	47	62	44
川西幼稚園	中止	98	49	44	26
川西こども園	63	中止	64	55	55
川西小学校	中止	中止	66	58	63

*川西こども園の新規開設はH29.4であるが、歯みがき指導は次年度より開始した。

感染拡大防止のため、染め出しは中止し歯間フロスの話しに変更した。今後、各所属の歯科検診の結果から、教室の内容を充実していく。

2 妊婦歯科検診

集団検診(年3回)、個別検診(通年)で実施している。令和元年度より個別も無償化。

	R2	R3	R4	R5	R6
集団	2	5	4	1	1
個別	9	10	9	8	5

単位：人

妊婦が減ってきていることもあり、個別・集団ともに受診者は減少している。仕事をされている方は、集団となると日程を合わせることが困難なため個別を希望し受診される方が多い。

(7) 産後ケア事業

①母乳相談費用助成事業（アウトリーチ（訪問）型）

産後1年までの産婦が不安要因のひとつの母乳相談について、相談・ケアを受けることができる。

	R2	R3	R4	R5	R6	単位：人
人数	6	8	4	8	10	

②産後ケア事業（通所型・宿泊型）

産後1年までのお母さんとお子さんで、育児に対する不安をお持ちの方などすべての方が産後ケアを受けることができる。助産院への委託にて、実施している。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	単位：回数/人
通所型	7回/2人	0	2回/2人	7回/3人	5回/4人	1回/1人	
宿泊型	0	7泊/2人	1泊/1人	0	0	0	

施設が満床のため宿泊型は希望する時期に利用が難しい状況である。令和7年度から委託先助産院を増やし対応していく。

(8) 母子手帳アプリ(母子モ)

スマートフォンで、予防接種の記録や児の成長の記録を残すことができる。

また、川西町の子育て情報を受信することができる。

単位：人

	R3	R4	R5	R6
登録者（実）	101	123	137	152

登録者数は増加傾向で、予防接種の記録・接種忘れ防止や町からのお知らせの受信できるなどの需要がある。引き続きホームページや広報で利用を促す。

(9) 小児科・産婦人科オンライン相談

スマートフォンで小児科医や産婦人科医と無料相談ができる。

	R4	R5	R6	単位：人
登録者（実）	90	106	121	
利用者（延）	65	87	82	

※ R3年11月～R4年3月末の実績

登録者数が増加した。また、相談内容も様々で、利用後のアンケートでは、「また利用したい」と好評を得ている。引き続きホームページや広報で利用を促す。